高齢者の世代性(Generativity)および世代性行動と 心理的 Well-being との関連

若年者からのフィードバックに着目した短期パネル調査による検討

○田淵恵¹・中川威²・権藤恭之²

(¹ 関西学院大学文学研究科・² 大阪大学大学院人間科学研究科)

キーワード：世代性(Generativity), フィードバック, 心理的 Well-being

A Study on the Relationship between Generativity, Generative Act, and Psychological Well-being in Older Adults.

Megumi TABUCHI¹, Takeshi NAKAGAWA² and Yasuyuki GONDO²

(¹ Department of Psychological Sciences, Kwansei Gakuin Univ., ² Graduate School of Human Sciences, Osaka Univ.)

Key Words: Generativity, Feedback, Psychological Well-being

目 的

世代性(Generativity)は、Erikson の提唱した題 7 段階の発達課題であり、「次世代を確立させて導くことへの関心」(Erikson, 1950)と定義される概念である。世代性の向上は、中年期の若年世代に対する支援行動や、地域貢献に関わる行動に影響し、心理的 Well-being の向上にもつながるとされている(An & Cooney, 2006)。近年では長寿化や晩婚化に伴い、世代性が高齢者においても重要な発達課題とされており、特に高齢者の心理的 Well-being との関連において注目されている。これまでの先行研究では、高齢者の世代性およびそれに関連する支援行動や地域貢献行動(世代性行動:Generative Act)と心理的 Well-being との直接的な関係、および世代性行動と世代性の向上の直接的な関係が仮定されてきた。社会的取り組みとしても、高齢者の心理的 Well-being の向上と世代性の発達を目的とし、高齢者の世代間交流プログラムが積極的に推進されてきた。

しかし一方で、高齢者の世代性行動が、行動の受け手である若年世代にポジティブに評価されなければ、行動が必ずしも心理的 Well-being の向上および世代性の発達につながらないとする研究もある(Cheng, 2009)。

そこで本研究では、高齢者が世代性行動を行った際に若年世代から受け取るフィードバックに着目し、世代性および世代性行動と心理的 Well-being の間を媒介する要因として若年者からのフィードバックを仮定した。また、高齢者が若年者からネガティブなフィードバックを受け取った場合、高齢者の世代性の発達が停滞すると仮定した。

方 法

研究対象および研究手続き：本研究では、2 時点短期パネル調査を行った。1 時点目の調査は 2010 年 7 月から 8 月にかけて、高齢者 1250 名を対象に郵送法による質問紙調査を行い、676 部を回収した(回収率 54.08%)。2 時点目の調査は 2011 年 7 月から 8 月にかけて、1285 名を対象に行い、623 部を回収した(回収率 48.48%)。回収された回答のうち、「性別」「年齢」「生年月日」「出身地」から 1 時点目のデータとのマッチングを行い、最終的に 400 名(男性 244 名、女性 156 名)を分析対象とした。2 時点目における平均年齢は、71.92±12.03 歳であった。**質問内容：**Loyola Generativity Scale (LGS) (McAdams & Aubin, 1992)20 項目の日本語版(田淵・権藤, 2012)、丸島・有光(2007)を参考に作成された、世代性行動尺度 18 項目、若年者からのネガティブ・フィードバック尺度 15 項目(Cheng, 2009)、感情的 Well-being 尺度(中原, 2011)12 項目であった。

結 果

心理的 Well-being の指標として用いた感情的 Well-being 尺度をポジティブ・ネガティブの両側面に分けて仮説モデルの検討を行った。その結果、2 時点目のポジティブ Well-being

に対しては、1 時点目のフィードバックからのパスは有意にならず($\beta=.02, n.s.$)、ネガティブ Well-being に対しては有意となった($\beta=.11, p<.05$)。また、1 時点目のフィードバックから 2 時点目の世代性に対するパスは、有意となった($\beta=-.09, p<.05$) (Figure)。

Fit Index: $\chi^2(13)=358.92$; CFI=.96 RMSEA=.08, NNFI=.90

誤差項は省略、表示は標準誤・最尤法による推定(** $p<.01$, * $p<.05$, † $p<.10$)

Figure ネガティブ Well-being における仮説モデルの分析結果

考 察

結果より、ネガティブ Well-being においては、高齢者の世代性行動に対する若年者からのフィードバックが関係していることが分かった。高齢者が若年者に対して支援行動を行っても、良好な世代間相互作用が起これば、高齢者が若年者からネガティブなフィードバックを受けた場合、高齢者のネガティブ感情が増加し、世代性の発達が阻害されると考えられる。一方、高齢者のポジティブ Well-being と若年者からのフィードバックとの関連は認められなかった。本研究のモデルではフィードバックのネガティブ側面にのみ着目したため、フィードバックのポジティブ側面とポジティブ Well-being との関連を検討する必要がある。

引用文献

- An, J. S. & Cooney, T. M. (2006). Psychological well-being in mid to late life: The role of generativity development and parent-child relationships across the lifespan. *Journal of Behavioral Development*, 30(5), 410-421.
- Cheng, S. T. (2009). Generativity in later life: Perceived respect from younger generations as a determinant of goal disengagement and psychological well-being. *Journal of Gerontology*, 64B(1), 45-54.
- Erikson, E. H. (1950). *Childhood and society*. NY: W. W. Norton & Company.
- 丸島令子・有光興記 (2007). 世代性関心と世代性行動尺度の改訂版作成と信頼性、妥当性の検討. *心理学研究*, 78(3), 303-309.
- McAdams, D. P. & Aubin, E. S. (1992). A theory of generativity and its assessment through self-report, behavioral acts, and narrative themes in autobiography. *Journal of Personality and Social Psychology*, 62(6), 1003-1015.
- 田淵恵・中川威・権藤康之・小森昌彦 (2012). 高齢者における短縮版 Generativity 尺度の作成と信頼性・妥当性の検討 厚生指標 59(3), 1-7.